ツキヨミ!

山田木理

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト http://pdfnovels.net/

注意事項

は「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒ 囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致し ナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範 テ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。 この小説の著作権は小説の作者にあります。 このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タ 小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。 そのため、作者また

小説タイトル】

ツキヨミー

Z ロー ド]

【作者名】

山田木理

完結の短いお話なのでお気軽にどおぞ チキ作者によるインチキ霊媒師のインチキくさいお話ですが、 霊媒師を営む三姉妹とそこに訪れる様々な客との物語です。ずらずずでし】 イン 一話

第1話の霊媒師のお仕事?

る うちは、 『霊媒師』 を生業としている。 かっこインチキかっこ閉じ

この話と同じようなものだ。 面白くもないのにコメディーとずうずうしく言ってのけるような.. 霊能力のない霊媒師を『霊媒師』と言ってい なぜかっこをつけたかというと、 全く霊能力がない霊媒師なのだ。 いのかわかんないけど、

しかし、うちは結構当たると評判の霊媒師である。

その辺の面白くないコメディーとはわけが違う。

なぜ、当たるかって言うとインチキだからである。

おっと待て。

インチキだから当たる?当たらないのはホンモノ?

あれ?あれ?

当たるのは、インチキ?ホンモノ?

え?どっちだっけ?

インチキは霊能力がないから、当たらないし。

ホンモノは霊能力があるから、 当たるはずである。

確かホンモノは、 霊とお話ししたり、 前世ってものが見えるのだか

6 :

えっと、ですね。

つまり、当たるのは、ホンモノだ。

当たるのが、ホンモノだから、

インチキは当たらないってことになるのか?

インチキは当たらないのに、 うちの霊媒師は当たると評判だ。

インチキにもかかわらず、 霊と話せないにもかかわらず、 当たるの

だ。

うちの霊媒師の影のモッ である。 **|** は 完璧なリサー チ&アフター フォ

普通の霊媒師さんはそんなことしないはずだ。

そんなこんなで、 つまり、 うちは『 インチキ霊媒師』 屋さんである。

うちの家族は、

私は、 次女、瀬戸内理真。アフターフォー家族は、姉と妹と私の三姉妹です。 アフター フォロー 担当。

長女、 瀬戸内絵里。 インチキ霊媒師の顔とも言うべき存在である。

三女、 瀬戸内麻美。 リサーチ担当

たまに状況によっては、 担当が変わることがありますのであらかじ

めご了承ください。

私たちは両親を早くに亡くし、育ててくれたおばあちゃ んも一 昨年

亡くなった。

言っておきたいことは、 おばあちゃ んはホンモノの霊媒師だっ

しかも、 当たるホンモノだ。

あれ?ホンモノは当たるものだから、 当たるホンモノってのは、 تع

ういうことだ?

まぁ、いっか。

以前は、 おばあちゃ んが残してくれた常連さんにのみ『 インチキ霊

媒師』をしていた。

その後、 いろんなことがあり

気が向けば、 その時の話とか、 こうなってしまった話もしようと

思う。

とにかく、 今は儲からない一見さん相手にも手広く『 インチキ霊媒

をしている。

あなたの運をひらいてみませんか?

まずは、 このドアをひらきましょう!

そんなキャッ チコピー が書かれた扉には、 さらに、 7 貞子の孫』 لح

める

貞子は祖母の名前である。

その孫だから、『貞子の孫』らしい。

『新宿の母』とか『銀座の母』の真似である。

なんとなく意味を取り違えた微妙な名前である。

その『貞子の孫』の扉を開けると、まず衝立がある。

左に行くと暗幕があり、そこををくぐると霊視用の部屋がある。 衝立の奥には応接間があり、応接間の右奥に扉がある。

その扉には、 手書きで「STAFF ONLY」と書かれた紙が貼

ってある。

*

さてさて、 そして、今日も絵里姉は霊媒師のコスプレでお客様の前に座ってい 本日のお客様は30半ばの女性のようだ。

あの~。タマを探してほしいのですが...」

最近のペットブームで、たまにある相談だ。

そう考えると、 恐らく初めは自分で探し、その後、興信所などへ行き、そこでも見 えられる。 つからなかったなかったのでここに来たのかもしれない。 タマがいなくなって、 かなり時間がたっていると考

昔から、 絵里姉は、 「え?どうしてわかったんですか?」 タマは猫ちゃんですね」 タマと言えば、 目を閉じてぶつぶつ口の中で言ってから、 猫だ。 呟いた。

サザエさんの力だ。

あなたの曾お爺様が教えてくださいました」

30歳過ぎ女性の曾爺さんは大概亡くなってい絵里姉は、お客様の曾爺さんとお話しする。 る。

しかも、 最低4人はいるのだ。

本当かどうか誰も判定できる人はいない。

大半の人は、半信半疑。

だが、その女性は驚いている。

結婚詐欺のカモの素質がある。

そして、 その女性は一枚の写真を取り出し、 絵里姉に見せた。

「まぁ、 なんて可愛らしい...。 早く探してあげなくては...

絵里姉の芝居は大袈裟だ。

涙まで浮かべている。

その女性も泣いている。

「うう…、 元彼からもらったんです。 血統書つきの猫だって言って

ました」

「血統書つき?ですか...

アメリカンショートヘアー」

私からは猫の写真は見えない。

アメショーにタマとはずいぶん思い切った名前をつけたな。

...のクオーターって元彼が言っていました」

人はそれを雑種という。

いです!タマを、タマを探してください

私と妹の麻美は、 STAFF ONLY の扉の奥にい

麻美はパソコンで何かを検索している。

パソコンの前には、 モニターとスピーカーがある。

モニターでは、絵里姉が女性の曾爺さんと会話している。ここでは、暗幕の中の様子が手に取るように分かるのだ。

理真お姉さま。 ちょうどいい猫がいましたわ」

麻美は落ち着いた様子で私に向きなおり、 パソコンの画面を見せた。

はい

画面には「仔猫の里親募集」文字。

タマによく似た仔猫が潤んだ目で何かを訴えている。

*

数日後。

出会いました~』 『曾爺さんの言うとおりでした~。 公園であの子に生まれ変わりに

電話の向こうで女性が泣いていた。

あの後、私は里親を募集していた人から猫を引き取りに行き、

の家の前で『偶然、里親を探す女性』を演じた。

私は、勝手に絵里姉が「死んだ」ことにしたタマを思った。「本当のタマちゃんは、どこ行ったのかな~?」

「あの雑種?たぶん。元彼んところよ」

「なんで、 わかるの?」

「女のカンよ。そうでしょ?麻美」

「はい。そのようです。元彼の自宅を調べましたから」

三女の麻美は溜息をついて言った。

「あれ?そこにはいないって言っていたよね。 元彼が隠していたの

かな?」

次女の私はごもっともの疑問を持ってみた。

に仔猫を探していたのかもわからないわ。 「さぁねぇ…。本当のことはわかんないわよ。それに、彼女が本当 ただ、 彼女が、 『タマの

長女の絵里姉は強引に話をまとめた。生まれ変わり』にあったのは、運命だったのよ」

最近のペットブームでペット探しの相談がたまにある。 いなくなったペット探しは興信所やなんでも屋の仕事だ。 インチキ霊媒師の仕事はなんだ?

私は『アメリカンショー しながら無意識に懐かしのメロディーを口ずさんだ。 トヘアー のクオーター』の写真に目を落と

ゃん。 わんわわん んにゃにゃん。 を聞いてもわからない。おうちを聞いてもわからない。 「迷子の迷子の子猫ちゃん~。あなたのおうちはどこですか。 犬のおまわりさん。 にゃんにゃんにゃにゃん。 困ってしまって。 泣いてばかりいる子猫ち わんわんわわん。 にやんにや 名前

突然、麻美は不思議そうに呟いた。

ような気がします」 うか?遠まわしに人間とペットの関係性を皮肉っているともとれる 「その童謡は種のコミュニケーションの壁を意味しているのでしょ

「 にゃー んとワンだふるな歌かしらん」

「絵里お姉さま。寒いです」

「にや、にや…」

理真お姉さま。 絵里お姉さまに対抗しないでください」

ある。 うちは、 当たると評判の霊媒師、 かっこインチキかっこ閉じる、 で

第2話 運命の出会い

運がないんです」

かにも運のなさそうな男性が今日のお客様である。

ただし、 ただし、一見さんの予約は土日しか取れない。うちは完全予約制である。

それは、 私、理真は高校生だし、 妹 麻美は中学生だからである。

私たちは三人で一人前である。

とはいっても、それだけでは商売にならないので、祖母が残してく

れた常連さんも定期的に霊視する。 それらももちろんリサーチ&ア

フター フォロー をするが、 慣れているので姉が一人でもお客様の対

応は可能である。 そういうわけで、 平日は常連さん専門で、 土日は

一見さん専門ある。

の場所をメールで案内する。 一見さんには、 ネットで多少の情報を入れてもらってからオフィス

男性の名前は、 [『]鈴木 剛史』

そして、

今回のお客様の情報も前もって得ている。

年齢『31歳』

職業 会社員。

趣味。 なし』

特 技 『 なし』

好きな女性のタイプ『優しい人』

相談内容『運気をあげたい』

「遠足では、必ず下痢になりました」

いた。いた。いた。そんな運のないやつ。

「修学旅行前日には盲腸になりました」

いた。いた。そんな運のないやつ。

ンザにはかかるし、蚊を手でつぶしても必ず血を吸われた後だし、 「年に1回は車にはねられるし、予防接種をしても毎年インフルエ

銀座で蜂には刺されるし...」

いた。 いた:

「何より、悔し のは、 好きになる女の子は、 必ず僕の友人を好き

になるんです」

いた
:
。

「彼女いない歴、31年です」

痛い。

イケメンとは言えない顔で鈴木さんは肩を落とす。

私と妹は別室でその様子をモニターを通して見ている。

妹が呟く。

「マリエおばちゃんの出番かもしれませんね」

マリエおばちゃんとは、 親戚ではなく、うちと業務提携している結

婚相談所『マリエーヌ』のおばちゃんである。

こんなことがあると、マリエおばちゃんにちょうどい しし 人を見繕っ

てもらうのだ。

もちろん、お見合いさせるわけではない。

そして、私たちがすることは違法らしい。

となく聞き出した女性のタイプをマリエおばちゃんに伝えている。 いながら、マリエおばちゃんに連絡し、絵里姉が鈴木さんからそれ麻美が渋い顔で、個人情報保護法がなんたらかんたらとぶつぶつ言

うちはアフターフォロー完璧「インチキ霊媒師」 だ。

そして、 恋の出会いもさりげなくサポートする。

「理真お姉さま。 今回はどの脚本がいいと思います?

フォ 麻美はパソコンの深い溜息をついて私にPCの画面を見せた。 ルダ名『運命の出会い』 には絵里姉お手製の脚本が収められて

- 『その (1) 月九的偶然てんこ盛り』
- 『その(2) 火サス的ミステリーは突然に』
- 『その(3) 昼ドラ的どろんどろん』
- 『その(4) 世にも奇妙的ありえない』
- その 5 フレンズ的キャサリン&ディ
- 『その(6) 24的ジャックバウアー』

どれがいいですか?理真お姉さま」

どれもこれもないよ。 その(1)以外できないでしょ!」

「それもそうですね」

この脚本は増殖中である。

ほぼ絵里姉の趣味である。

その(6)ではビルが爆破され、 そこで愛が芽生える。

無茶苦茶だ。

その(1)では徹底した偶然を何度か作り上げる。

·マリエおばちゃんから連絡が来ました」

麻美はそう言いつつ、 メールで送られてくる情報を読んでいる。

この情報から具体的な『運命の出会い』 を作り上げるのは麻美の仕

事だ。

絵里姉は、イヤフォンをしている。

そこから、 麻美の作った『運命の出会い』 の情報を聞く。

*

数日後、 鈴木さんは休日にここで資格の勉強を始めたのだ。 私はとあるファミレスに来ている。

鈴木さんの曾爺さんはインチキ霊媒師の口を借りて、鈴木さんに対鈴木さんの曾爺さんだ。資格を取るように勧めたのもここで勉強をするように勧めたのも、

めたのだ。 鈴木さんに勧

バカさんなのか謎だ。 本当に素直に言うとおりにしてしまう鈴木さんはい ١١ 人なのか、 お

ちなみに、 私は今日が初日の新人アルバイトに なってい ්තූ

その女性はマリエおばちゃんの結婚紹介所に登録している女性だ。 そして、アルバイトの先輩には、 少しぽっちゃりした女性がい

適齢期を過ぎ、 親が心配して勝手に登録したらしい。

女性の名前は、 『安藤 寛子』

年 齢 7 34歳』

住所『 東京都江東区 5 6 9

職業 7 日本語教師・ファミレスアルバイト。

趣味。 ブログ』

特技。 料理・英語・ 中国語

好きな男性のタイプ『優しい人・ 頼りになる人』

今日のヒロインだ。

麻美がこの女性を選んだのは、 \neg 優しい」 のキー ワ 1 ドと住所が近

いからだ。

のが絵里姉の持論だ。お互いの好みに合わせるより、 物理的に近い方が重要であるとい う

確かに住所が近い方が偶然を装いやすい。

とにかく、 寛子さんに鈴木さんの顔を覚えてもらうのが、 ステップ

私はハンバー グセットを頼んだ鈴木さんにチョコレー トパフェを出

取り換えるときには、 フロアの責任者である安藤さんが謝罪に行く

はず::

しかし、 鈴木さんは何も言わずチョコレー トパフェを食べてい

失敗。

次に、 私は蠅を入れたコーヒーを出す。

しかし、 鈴木さんは黙って蠅入りコーヒー を飲んでい

失敗。

次に、 私はつまずいて隣の客のハンバーグセットを鈴木さんの頭か

らかけた。

すみませ

私は喜々として寛子さんを呼ぶ。

フロア責任者の寛子さんは深く頭を下げた。

「申し訳ございません」

成功。

「いいんですよ。 僕、 本当に運が悪いんです。 よくあるんです。 だ

から、 気にしないでください」

鈴木さんはへらへら笑いながら、 布巾で顔を拭いている。

「あのクリーニングを...」

寛子さんが申し訳なさそうに切り出すと、 鈴木さんは首を横に振っ

た。

いいんです。どうせ安物だし...。 僕の運の悪さのせいですよぉ」

へらへら笑っている。

笑う門には、 悪運来たる。

運気を上げたい割には、 その運のなさを受け入れているように見え

ಶ್ಠ

今回の悪霊は絵里姉だ..悪霊すらウエルカムゥ。

でも

たように唸った時だっ ンバーグの香りを放つ鈴木さんの笑顔を見ながら、 た。 寛子さんが困

ボン

ものすごい爆音がキッチンから聞こえた。

「きゃっ

「うわっ

「 何 ?」

客席がざわつく。

寛子さんは固まったまま、 動けない。

すると、鈴木さんが、

「あのぉ...ガス爆発みたいですよ。 早く従業員と客を避難させてく

ださい。僕が消防に電話します」

意外にも、落ち着いててきぱきと寛子さんに指示を出した。

...え?あ...。でも...」

早くしましょう」

鈴木さんがやっぱり笑顔で寛子さんに言った。

寛子さんはジッと鈴木さんを見つめてから、

私は辺りを見渡す。 フロアには被害はない。

「寛子さん!私はキッチンを見てきますから!」

え?でも、 危な…」

ガス爆発は小さく、 けが人も出なかった。

警察や消防署の人たちがウロウロしている中で、 私は鈴木さんとい

た。

あの状況であれだけ的確に指示できる人っていないと思います」 鈴木さん でしたっけ?ずいぶん落ち着いていますね。 よくあることだ なかなか

「え?僕が?う~ん。 だって、 僕 運が悪い から、

へらへら笑っている。

笑う門には、 悪運来た.

「すみません!」

話を割ってきたのは、 警察の取り調べを終えた寛子さんだ。

「あの、 ありがとうございました。 お礼をしたいので、 連絡先を教

えてもらえませんか?」

*

いうわけ」

私は、 事の顛末を、 絵里姉と麻美に話した。

「初めて、 『運命の出会い』 がうまくいきそうですね」

「そう。初めてだよね~」

私と麻美は絵里姉をしらじらと見た。

そうなのだ。

今まで何度も『運命の出会い』を演出したが、 せいぜい知り合い止

まりだったのだ。

絵里姉は、ちょっとムッとしたように反論した。『偶然の出会い』が『運命の出会い』になるなど滅多にない。

って言っているだけ。 「なによ~。私はね。 恋人ができるなんて一言も言っていない。 いつも、そこに素敵な出会いがありますよ~ 出

会いがあったのは、 間違いないでしょ。 今回だって、ぼやぼやして

いると、 友達に取られちゃうかもしれないし。 その出会いを活かす

か殺すかは、その人の運次第よ!」

確かにインチキ霊媒師...じゃなくて、 絵里姉の言う通りだ。

『運』って何なんだろうか...

それにしても、 案外『その (6) ₁ っていけるわね...」

絵里姉の呟きが聞こえた。

その(6)ってまさか... 7 その 6 24的ジャ ツ クバウアー ?

「ちょっと! あの爆発は、 偶然

の言うことなど聞かず、 絵里姉は不敵な笑みを浮かべた。

ごめんよ

業着をきたおじさんだった。 何となくそわそわ入ってきたのは、 「倉田運送」 と書かれた作

本日のお客様の名前は、 倉田秀雄。 4 8

絵里姉がにこやかに暗幕の中に通した。

きょろきょろを周りを見渡し、落ち着かない様子で椅子に腰かけた。

私は麻美といつものように別室で様子を見ていた。

じさん。 ここには、 似つかわしくない、が第一印象の無精ひげのガングロお

ちゃいねぇけどよっ 「あのよ。 そのつ。 コレがすすめたモンでよぉ。 俺はこんなの信じ

小指を立てる。

その小指は女を意味します。 知らない方のため。

「その...、なんだ。俺のバカ息子がよ...、ってか...。う~

ごつい指で無精ひげをなで、そして、鼻水をすすった。

... なんだ。そのなんて言うか。とにかく、バカ息子でよ... 」

声が震えている。

がって。 は俺のせいだけどよぉ...。 何もよぉ~。 話のまとまらない倉田さんを絵里姉は静かに見守っている。 入ってすぐに中退しちまうし。 フリーターだの言ってプラプラしや ... 万引きだの、 ガキの頃、母ちゃんが出てって淋しい思いさせちまったの 窃盗だの、散々悪さして...。 やっと入った高校も 死ぬこたぁ、ねぇだろつ」

大体の事情はわかっていた。

の『コレ』 がネッ ト予約の際に、 詳し 情報を書い た

別室の麻美が静かに言った。

「正確には死んでいませんが...」

すると、モニターに映るおじさんも、

そう言うと、 「死んでは、 ねえんだ。 一枚のカードを「倉田運送」と書かれた作業着の胸ポ そうなんだ。 ケンジはまだ死んでねぇんだ」

ケットから出した。

黄色のカードには天使がにっこり微笑んでいる。

おじさんの息子は盗んだバイクで走行中に電柱に激突した。 ヘルメットを被っておらず、 激しく頭を打ちつけ、 彼は脳死と判定

された。

その息子は、 万引きや窃盗などくりかえしては、 警察にお世話にな

るような息子である。

でここに来たわけである。 で、どうしても信じられないのである。そうして、 もし、本当なら息子の最後の願いを叶えてやりたいと思うが、 しかし、 その息子が「臓器提供意思カード」を持っていたのだ。 『コン』 の勧め 一方

脳死が『死』であるなら、 息子も霊となっていて話せるのではない

か、というわけだ。

*

数日前。

そして、 この仕事を引き受けることにした絵里姉は、 私は、 妹の麻美と絵里姉ちゃんに調査結果を差し出した。 私に調査を命じた。

ICレコーダー である。

ここには、 私と息子であるケンジの友人たちの会話が入ってい る

ケンジの友人たちは、 ンとかボンタンとかが似合うどこか懐かしい風貌の方々だっ 今時の若者にしては、 リーゼントとかスカジ た。

友人Aの声

『えええぇぇ?ケンジの生き別れの妹ぉ???』

ちなみに、話を聞き出すために私は生き別れの妹になった。

まぁ、世の中、テレビのような出来事は多いはず。

真実はナントカより奇なり...って言うし。

私の声

『お兄ちゃんを探し出した時には..、うぅぅ... だから、 お兄ちゃ

のこと、何でもいいので教えてください~うっ

涙が出るほど演技派ではない私は目薬を使う。

友人Bの声

『そんな話。ケンジは一言も言ってなかったけど』

私の声

妊娠がわかって…、でも、 お兄ちゃんは知らなかったんです。 お父さんにもお兄ちゃんにも、 お母さんが家を出て、 何も言わ すぐに

ないで...、うぅぅ (目薬)』

友人Aの声

『なんて、 かわいそうなんだ。 ケンジにこんなかわい い妹がい

んて...』

かわいい?!友人Aいいやつ。 だから、 ンジもい いやつ。

よって、臓器提供意思表示カードは本物。

理真お姉さま..独り言がはいってます」

理真あ?ちょっとぉ~。これで終わり???」

「...続くよ」

私の声

『あのぉ 父には内緒にしてください。 お母さんの立場もあるの

で : :

友人Aの声

゚わかってるって!まかせとき』

私の声

『うう~ (目薬)』

友人Cの声

歳だぜ?ちょ 『あいつも、 ついてねぇよな。 ついてねえ。 死んでも死にきれねぇ...から、 こんなんで死んじまうなんて。 まだ死 1

んでないのか?なぁ、脳死って何?』

私の声

『おにいちゃんは、いい人だったのですか?』

友人Aの声

『いいやつ。 だったぜ~。 チャリの鍵とか外すのうまいし、 バイク

の直結とか..』

友人Bの声

『ヨッシー!』

友人Aの声

:. あ。 いや。 まぁ、 漢字も書けないけど、 いいやつだったよ~』

友人Cの声

『なぁ、 脳死っ て何?脳が死んでるってこと?ちょー 意味わかんね

え □

友人Bの声

『ねえちゃんよ。何が知りたいんだ?』

私の声

『思い出、 ばなし... ?主に、 しし い感じの思い出話を中心に...なんて、

あれば...』

友人Aの声

。略して、 イイオモバナ~?何がでるかな?何が出るかな?』

友人Cの声

『なぁ、 脳が死んでないなら、 何が死んでるんだ?』

友人Aの声

『ケンジのイイオモバナ~。 イイオモバナ~』

友人Cの声

『なぁ、脳以外は生きてるのか?体は動いているのか?』

友人Aの声

てるし。 『イイオモバナ~。 すげえよな。二十歳まで3年も我慢するって。 えっと、 ケンジはタバコは二十歳からって決め すげえいい

友人Bの声

...。もともと涙もろいやつだったな』 と泣いていたよな。自分と重ね合わせているのかなって思ったけど 『いい話ね。そう言えば、ケンジさぁ、 捨てられた犬を見て、 ずっ

友人Aの声

うのに弱かったよな。 テレビとか感動モノに弱いんだよ。 同じシー ン見ては泣いていたなぁ~』 『あ~。それ、チョーイイオモバナじゃん!!そう。そう。 そうい

友人Bの声

じゅんパパ"だっけ?』 『そうだったな。最近、 ハマっていたのって、 あれ、 何だっけ?

友人Cの声

『体が動くって事は、 ご飯は食べてるのか?なぁ?』

友人Aの声

『そう。そう。オレたちにも勧めていたよな...』

私の声

『"じゅんパパ"…?』

友人Bの声

『あれ見て、ずっと泣いていたよ』

友人Cの声

ケンジって動けるのか?じゃ 今、

フチ

... ここまで、 ですか? 理真お姉さま」

ちょっと!理真?」

ここまで、だよ」

私は、そう言ってから、 携帯を取り出した。

あったの。ココにね!」 "じゅんパパ"ってのは、 ケー タイ小説だっ たの。 ここに答えが

『ココ』を見て、 麻美が頭をひねった。

腸?浣腸?」

そして、 時は戻る。

今 ケンジの霊が絵里姉にのり移った!ことになっている。今、倉田ケンジの父の前で絵里姉がぶつぶつと何かを唱え、

す。 親父の会社で働きたい」 をする。 んわかんなかった。 ...オレは、ずっと、 いこと、しなきゃって思うよ。でもさ、 親父にも心配ばかりかけて、ホントに悪いって思っているし... 盗んだバイクも返してくる。 でも、誰か助けたい。 悪いことばっか、やってきて、超反省して オレは、 とりあえず、ドナー登録 いいことって何かぜんぜ 親父に謝る。 そして、 ま

と、呟いた。

倉田さんは、絵里姉を見て、 目をぱちくりさせた。

…ケンジだ。 ケンジの言い方にそっくりだ」

ば、ケンジさんのもう一つの望みを叶えてあげてください お父様と働きたいと言っています。 でも、 倉田さんは黄色のカー ドの中の天使の微笑みをじっと見つめたまま、 「ふぅ~。これがケンジさんの本心です。 ひげを抑え何度も頷いた。 お父様に謝っています。 それは叶いません。

倉田さんを見送り、 絵里姉は黒のサリー を脱いだ。

って言われたって、信じたくないよね」 はあ〜。 脳死って微妙だよね。 体は生きているんだよね。 死 h だ

引くか。 ですね」 「 現 在、 心臓が止まっても細胞はしばらくは生きています。 どこで死の線を 一般的には心臓停止が人としての死とされてい 見た目では心臓の停止がわかりやすいですから仕方がない ます。 で

麻美はジッと携帯を見ながら言った。

麻美。 もしかして、 " じゅんパパ" 更新し たの?」

にはい

「ちょっと!教えてよ!」

じゅんパパ、はケータイ小説の一つだった。

正式な題名は、「じゅんのパパでよかった」。

簡単に説明すると、

ಠ್ಠ パパが事故で脳死となるのだ。 そして、もう少しで、アメリカへ行けるってところで、 表示カード」を医者に提示する...』 はアメリカへ行くために必死で募金を募るなどして頑張っている。 『小学生のじゅん君は、 日本では子供の心臓移植は認められていない。じゅん君の両親 心臓移植が必要なほどの心臓病を患ってい ママは泣きながら、 「臓器提供意思 じゅん君の

Ļ 話は連載中のため、その後の展開はまだわ からない。

ケータイ小説には、読者が感想を書き込める。

そこに本名で感想を書いていた人物がいた。

「くらたけんじ」

腸反省してます。 って何かぜんぜんわかんなかった。 っているし...、 かっ 浣腸 た。 じた。 た。 が助 けたい。 いこと、 オレは、 親父にも心配ばかりかけて、ホントに悪いって思 しなきゃって思うよ。 ずっと、 とりあえず、 でも、 悪いことばっか、 ドナアになる。 何かこれ読んでちょっと でもさ、 やってきて、 盗んだバ いこと

たい クも帰してくる。 オレは、親父に誤る。 そして、親父の会社で働き

感動した....? 腸、浣腸した..? 腸、浣腸した..? 腸 浣腸した.....? 超、

うちは当たると評判の... なんだっけ?

「ばああああ〜」

オフィスに怪獣の泣き声が響いた。

暗幕の中の小さな怪獣はきょろきょろと落ち着かないように辺りを

見渡す。

隣に座る怪獣のママを見ると少し安心して、 次は紫のテー

スを小さな拳でごしごしと擦っている。

怪獣の名前は、畠山サトル君、2歳と3か月。

お隣には、サトル君のお母様の千鶴さんがすました感じで座っ てい

ಕ್ಕ

ベージュのスーツは母親というより、キャリアウーマン風である。

千鶴さんは、溜息をついて自分の息子を見た。

普通よりも言葉が全然遅いんです。 「この子は、もう2歳になるのにほとんど言葉を話さな 何か悪い霊が憑いている以外、 l1 んですよ。

原因が見つかりませんの」

絵里姉は、このお客様が来る前に、 少しだけ育児知識を入 れ

れませんが、3歳から突然話始める子供もそれほど珍しい 「まだ、 結論を出すのは、 早いと思います。 確かに少し遅 わけでは いかもし

ありませんから...」

育児のカウンセリングに来たわけではありませんの。 いるかどうかを確認しにまい 小児科はございます。 人も専門は違いますが、そこの医師です。 「霊媒師さん。私の実家は総合病院を営んでおります。 一般論を聞きたいわけではありません。 りましたの。 そして、うちの病院にも お分かりですか?」 悪霊が憑いて 私も私の主 私は

医者が悪霊を確認にきた?

何のこっちゃ?

おばばぁ~。キャハハハハ

は思えない 無邪気に絵里姉を指差し笑っているサトル君に悪霊が憑い てい

あ..、絵里姉の額に青筋が...

な気がする。 もっともモニターからそこまで確認ができるわけではないが、 そん

「憑いてますわ。 間違いないです。 こんな…」

絵里姉はイヤフォンをしている。妹、麻美が絵里姉を止める。『絵里お姉さま!!!!』

そこから、麻美からの情報を取れるようにしているのだ。

私と麻美はいつものように別室で待機だ。

すの。稀に弁護士や官僚になる者もおりますが、 やっぱり、そうですの?私の親族も主人の親族もほとんど医者で いずれにしても私

の子供だけ、こんなバカだなんてありえないですの」

ちょっと言葉が遅れているだけなのに、バカで、

何だか、私には千鶴さんのいう意味が理解できなかっ

医者とか弁護士にならないから、バカ...?

こうやって悪霊がどうとかいう方が、 よっぽどバカに見える。

もしかしたら、これが噂のモンスターペアレント予備軍かも。

しかし、 サトル君は嬉しそうに、ごしごしとテーブルクロスを拳で

擦っている。

そんなサトル君を気にも止めず、 千鶴さんはものすごい顔で絵里姉

に詰め寄った。

あの絵里姉が、 千鶴さんの剣幕に少しビビっ て いる。

95 曾お爺様ですわ」 いえ。その、...要 ... 悪霊ではなく。 その守護霊ですわ。 その、

ひ、ひ、

でた。 絵里姉お得意の曾爺さんが出てきた。

曾お爺様?」

かして、 畠山総合病院の創始者の畠山源三郎ですか?私のお

た。

。 の?

おっと意外な展開

まさか曾爺さんの名前を聞かれるとは

絵里姉から脂汗が出ているように見える。

モニターからは見えないけど...

で、名を名乗るほどのものではないと、 ですね、 : そ、 サトル君の守護霊の曾お爺様は、とっても恥ずか-そうかもしれないし。そうでないかもしれません。 おっしゃってますわ...」 とっても恥ずかしがり屋 :.. あの

通りすがりの命の恩人か!

でした」 「やっぱり源三郎お爺様だわ...、 お爺様は口下手な恥ずか がり屋

かなりの口下手の恥ずかしがり屋さんですわ

霊は口下手の恥ずかしがり屋が多いんだろうな...

「でも、お爺様が悪霊のわけないですし...、あっ!」

そう言うと、千鶴さんがスーツの内ポケットから携帯を取り出した。 「病院からだわ。ごめんなさい。 電話にでますので、この子を少し

見ていただけます?

そう言い終わらないうちにサトル君を置いてオフィスから出て行っ

ばぁ

私と麻美は別室を出て、絵里姉の疲れ切った顔を見た。サトル君を見て絵里姉が疲れたように肩を落とした。

サトル君は、 しゃがみこんだ私 の顔を見ると、

ばぁば~」

と言って、小さな手でむにゅ~ と私のほっぺをつねって、 またキャ

ハハハと笑った。

このガキィ〜

理真お姉さま」

麻美にいさめられ、 私が怖い顔でサトル君を見ていることに気づい

た。

サトル君は少しおびえたように私から離れて、 ょろ見回した。 次に周りをきょろき

ながら笑った。 そして、また嬉しそうに天使の笑顔を作り、 絵里姉の右上を指さし

私と麻美は顔を見合わせ、次に絵里姉の右上を見た。「じいじ~、じいじ~。キャハハハハ~」

絵里姉は、さっ こっぱいじ....... ?曾爺さん? ここには何もない。

ゃ やめてよ~~~。 れ れ 霊なんてこの世にいない わよ

私にしがみ付い

とインチキ霊媒師らしいセリフを吐きながら、

た。 そして、 麻美に向きなおり、

「そうよね!麻美!」

「確かに現在の科学では霊の存在は証明されておりませんが、 いな

いという証明も科学ではしきれておりませんわ」

絵里姉はしゃがみこんだ。「いや~~~~」

١J のでは

「絵里姉。 いたとしても、守護霊でしょ?そんなに怖いなら、この商売止めた方がい 守護霊でしょ?悪霊じゃない んだからい

いでしょ」

私は絵里姉を慰めてみた。

しゃがんでしまった絵里姉の前にはサトル君がいた。「そんな問題じゃな~い」

サトル君は、 また床をごしごし擦っている。

私は麻美が畠山源三郎をパソコンで検索してい たのを思い出した。

しばらくして千鶴さんが帰ってきた。

でも、 絵里姉はにっこりと笑って千鶴さんを迎えたように見える。 本当に申し訳ありません。 何とか解決いたしましたので、 ちょ っと病院でトラブルがありまし 先ほどの続きをしましょう」

が、 実際は笑っていない。

を守っているのです」 ほども言いましたが、 サトル君には、 たが、サトル君の曾お爺様が守護霊としてサトル君悪霊は憑いておりません。安心してください。先

ているように感じる。 いつもなら、さらりと言ってしまうセリフをどこかぎこちなく言っ

バカ...という前に絵里姉は、「だったら、なぜサトルは、 こんな…」

紙とクレヨンを出した。

さっき用意したものだ。

そして、 サトル君の前においた。

すると、 サト ル君はさっきと同じように嬉しそうにクレヨンを手に

取った。

そうして、 紙に何かを描きだした。

別室に戻った私は、 さっきサトル君が描い た絵を手に取っ

サトル君は曾爺さんが大好きなのだ。紙にはおじいちゃんが何人も描いてある。

サトル君の曾お爺様ではありませんか?畠山源三郎様...に似てな

いですか?」

そう言われれば..、そう見えないことも

千鶴さんは意味がわからないと言うように、 サト ル君が次々に描く

おじいさんの絵を眺めている。

サトル君には絵の才能があった。

でも

千鶴さんは首を捻る。

畠山源三郎様は画家になりたかっ たのですわ」

確かに源三郎おじい 様の趣味は、 絵でしたわ。 でも、 それは、 趣

ね として人々を救われてきました」 行かずにすみましたが、 くことは難 画家を諦めた 物のない時代に精一杯、貧しい方も分け隔てなく、 しかったと思います。 のは仕方ありません。 随分苦労されたようです。 体の弱い方でしたから、 戦時中でしたからね。 心優しい方です 必死で医師 戦争には 絵を描

た。 畠山総合病院の創始者である畠山源次郎の資料は割と簡単にそろっ

私は、 を思い出した サトル君の描いた絵を見て、 のだ。 麻美の検索した畠山源三郎の顔

千鶴さんは深く息をしてから、静かに話した。

々を思い、 たくさんの人が亡くなって。 お爺様は助けることができなかっ 「よくお婆様からも聞かされました。 とても苦しんでいたとか...」 戦争中は大変な苦労だっ た人 たと。

った。 絵里姉は、 **里姉は、楽しそうに曾爺さんの絵を描いているサトル君を見て言戦後も絵を描くなんてできる時代ではなかったのでしょうね」**

お爺様が言っておられます」 お勉強をして医者になって、 今は、 絵を描かせてあげてもいいのでは?きっと、 たくさんの人を助けてくれると、 必要になれば、

千鶴さんはサトル君の頭を撫でた。

「...そうですね」

サトル君の描いた曾爺さんの顔を見ながら少し微笑んだ。

わかりました。 もう少し、 この子をゆっくり見ます」

絵里姉は、 サトル君は千鶴さんに手をひかれ、 床にへたり込んだ。 楽しそうに帰って行った。

「も、もういないよね?ね?」

思いますよ」 まぁ、 サト ル君の守護霊ですからね。 サトル君と一緒に行っ たと

麻美はお祖母ちゃ ん子だった。 言葉遣いもその影響がかなり出てい

科学好きな麻美だが、お婆ちゃんが本物の霊媒師だったことは認め

絵里姉ももちろん信じているが、認めたくはないようだ。ている。

「それに、恥ずかしがり屋なんでしょ?もう出ないよ」

絵里姉は天に向かい叫んだ。「ごめんなさ~い!全国の曾爺ちゃん達ぃ~」と、とりあえず、私は慰めてみた。

私たちは、 少しだけ本物だったお祖母ちゃんに近づけたのかもしれ

ない。

絵里姉を見る限り、 それはないような気もするが...

ださい。 いずれにしても、 全国の曾お爺様方、 罪深き我が三姉妹をお許しく

幸せになりたいです」

滴が紫のテーブルクロスに丸い染みを次々に作り出す。 顔に痣をつくり、 真っ青な顔でその女性はうつむいた。

「幸さんに連絡をします」麻美が呟いた。

今日のお客様の悩みはネッ の申し込みからはわかりづらかったが、

DV、家庭内暴力である。 ドメスティックバイオレンス なんとなく察しはついた。

幸さんというのは、 を作って、絵里姉の前に座った女性である。 るようになって間もない頃、ちょうど今の女性と同じように顔に痣 ほんの半年前、私たちが一見さんのお客様も見

今の女性とちょっと違うのは、 幸さんは小さな子供を連れてきてい

*

半年前。

「どうしてい いのか、 わからないんです」

っ た。 まだ4歳ぐらい の男の子を抱きよせて吐き出すように、 幸さんは言

らしい。 たのだ。将来の不安だか何だかで、旦那は幸さんを殴るようなったもともと派遣の工場勤めで安定した仕事がないところに子供ができ に戻った。 「暴力はこの子が生まれて間もないころから始まりました その後、 子供のためと必死に我慢したが、 その時、 もっと暴力は酷くなった。 旦那は土下座をして幸さんを連れ戻した。と必死に我慢したが、ついに限界が来て、 何度となく実家に帰っ ては 実家 しか

れるという悪循環ができたのだ。 で迷惑をかけられず、家に戻っては、 んは実家に帰るのを止めた。 友人の家を転々とするが子供がいるの を繰り返し、 終いには幸さんの両親にも暴力をふるい、 前よりも過激な暴力を振るわ 幸^き さ

「このままでは殺されます」

幸さんが泣きながら言った。

絵里姉が唐突に言った。「逃げてください、...と霊が言っています」

その頃は、リサーチも特にしておらず、行き当たりばったりだった。

もっとも今でも大差はない。

「え?でも、これ以上、 逃げられません。 子供もいるし...」

「遠くに逃げればいいのです。どうせなら海外がいいですね。

が言っています」

絵里姉はこともなげに言った。

「そう。そう。私の知り合いにツアコンしている友人がいるので彼

を紹介しましょう」

『絵里お姉さま?それでは何の解決にもなりません』

姉はそれを無視して話を進める。麻美のもっともな忠告がイヤホンから聞こえているはずだが、 絵里

い方がい 激安で紹介します。とりあえず、チケットを手配しましょう。 いですね。パスポートは持ってますか?ちょっと待ってく

そういうと、絵里姉は、私たちがいる別室に戻ってきださい。彼にいつが空いているか聞いてきますから」

私たちがいる別室に戻ってきた。

どうするつもり?」

問いただす私を無視して、

携帯電話のメモリをチェックし始める。

…ええっと、確か、 あった。 あった」

そう言う間もなく、 電話しだす。

. ベトナム?ハノイ?ちょうどいいわね。 もし~、 電話、 とおいなぁ~、 猿う~?アタシ。 チケッ ト取ってよ」

林美が呆然と絵里姉を見上げている。

おっ ^ね゚゚゚ け。 おっ け。 じゃ ぁ まっ たね

絵里姉!いいの?そんなの勝手に!」

大丈夫よ。 猿は人間だから。猿みたいだから、 猿 田中っ て名前

だけど、覚えづらくて、猿って呼んでいるの」

「そんなことを聞いているわけではなくて...」

「大丈夫よ。元彼よ。 安全でしょ?」

逃げるだけでは、

何の解決にもならないって

言っているのです」

「そうではなくて...

麻美が言った。

そう言って、絵里姉は自分の胸を叩いてウインクした。 「まぁ、 まぁ、環境を変えるのもいいものよ。 特にここ の環境をね」

ここからは、幸さんから聞いた話だ。そうして幸さん親子は強制国外追放されてしまった。

幸さんはハノイについて、ここからは、幸さんから問 猿...田中に格安ホテルを紹介してもらっ

た。

そこで、 猿田中は、 籠りがちになる幸さんにどうせなら旅行をした

ほうがいいと勧めたらしい。

「幸さんは、どこに行きたいですか?」

猿田中がそう聞くと、幸さんは、

「幸せになれる所に行きたい...」

と答えた。 すると猿田中は、 にやり...幸さんいわく、 と笑って、

「ちょうどい いところがありますよ。 ただ、 僕は仕事があるので一

緒には行けませんが、行き方を教えますよ」

そう言って猿田中は幸さんに場所と行き方を教えたそうだ。

「幸せになれる場所...」

幸さんはぼんやりと夢のような世界を思い描 11 た

そうして、 『幸せになれる場所』を目指し、 子供をつれ旅立っ た。

最初は苦労の連続だった。

まわり の全てが怪しくて敵に思えたそうだ。

とにかくわけもなからない人々に声をかけられる。

連れて行かれそうになる。

子供の手を必死に握り締める。

汚いバスに詰めこまれ、降ろされた場所がどこかわからない。

とにかく、目的地の名前を連呼する。

通じたかと思えば、やっぱり違うところに連れて行かれる。

食事もなかなか思うようにとれない。

取れたかと思えば、子供は腹を下して泣きじゃ

自分もおなかが痛い。

英語とも日本語ともつかないやり取りで、 とにかく目的地を目指す。

ある時は、山道は崖崩れで、一日立ち往生。

「あの、インチキ霊媒師」

何度も『絵里姉』を恨んだそうだ。

ひどい雨の中、 来るか来ないかわからないバスを待ちながら、

「ごめんね」

幸さんが子供にそう言うと、さっきまで腹を壊して泣いていた子供セック

が、

「大丈夫だよ。僕が付いているよ」

と慰めてくれたそうだ。

なんだかんだと山を越え、 ボー ダー を越え、 そして、また山を越え、

猿田中が言っていた『幸せになれる場所』 についたそうだ。

そこは、もちろん、天竺ではない。

外国人の目立つちいさな村だった。

村のメインストリートと思われる場所にレストランが立ち並び、

それらのお店には、

WE HAVE HAPPY!

と壁や看板のいたるところに書かれている。

だが、それらは怪しいお店ではなく、 リゾー ト地によくある明るい

お店だ。

看板に書かれたメニュー には、 9 ハッピーピザ』 9 ハッピー シェイ

ク などの文字が並んでいる。

タキ。小さなお子さんを抱いた若いお母さんが出てきた。 そして、それらに立ち並ぶ一軒の小さなホテルに足を踏み入れると、

幸さんは、 恐る恐るきいた。

D O Y O U H A V E Η A P P Y ?

Y E S D O Y O U W A N T HAPPY?

*

そして、 現 在。

「よ!インチキ霊媒師」

そんな有り難くない挨拶をしながら、 幸さんはオフィスに入ってき

た。

DVに悩む女性が帰った後、 私たちは幸さんに連絡を取り、 幸 さ ん

幸さんは、1か月の逃避行の末、親子ともども真黒に日焼けをしてを呼んだのだ。

帰ってきたのだ。

つけたのだ。 ら裁判所やら近所の人やらを巻き込むだけまきこんで、 そして、真っ先に旦那の待つ家に帰り、 離婚届を叩きつけ、 離婚にこぎ

が幸さんの口癖になり、母子家庭でギリギリの生活を送りながらも、「人間。なるようになる」 DVに悩める女性を救うべくNPOを立ち上げ、 活動中である。

でも、 私は、何も知らない親子をアジアに送り込むような真似は

しないから、

そう言って、 幸さんは豪快に笑った。安心しな」 そして、

私は、 HAPPYになりたいけど、 HAPPYはいらないな

逃避行の話の続きだが、 HAPPYとは、マリファナの隠語である。

東南アジアでは、 公然とそれらを売るお店が少なく ない。

そして、 ホテルで出会っ た若いお母さんも、 いわゆるバイヤー

子供を育てるため、 生活のための手段である。

それらは簡単にHAPPYにしてくれるが、 本当に欲し Н

だから、幸さんは帰ってきたのだ。Yはそこにはなかった。

でも、そこで出会った人も同じ人間だった。

そんな当り前のことにも気付けたから、 開き直れたのだ。

「なるようになる?なるようにさせるじゃなくて?ならぬなら、 な

髪里姉がくすくす笑いながら聞いた。らしてみせよう。 ホトトギス」

相手を怒らして、幸さん自身も危ない目に遭っている。幸さんのやり方は、かなり強引らしい。

真っ黒な笑顔の口元に光る白い歯は、幸さんをさらに健康的に見せ「インチキ霊媒師には言われたくない」

た。

インチキ霊媒師さん。 私の役目は何でしょう?

「ある女性をHAPPYへご案内してください。 もちろん偶然を装

絵里姉がいうHAPPYとは、ってね」 NPOの名前である。

ただ、 幸さんが本当に幸せを手に入れたかどうかはわからない。 幸さんの笑顔は少しだけ私をHAPPYにしてくれる。

ンチキ霊媒師に幸あれ

第5話 HAPPY? (後書き)

います。 お話に出てくる『幸せになれる場所』は実在の場所をモデルにして

違法です。 地名は出しておりませんが、もちろん、そこでも「HAPPY」は

えりちゃ ん?

もまん丸 くして絵里姉をじっと見た。縦も横も大きくてまん丸い熊みたいな今日のお客様は、 目

絵里姉はもっと固まっている。別室にいる妹の麻美と私は、モニターを見て固まった。

名前変わったんだよね...。 ちゃんの家庭教師していた熊田健吾。 「えりちゃんだよね?ほら、ここの近所に住ん 前は苗字は細井だっ あ、そっか、 でいた僕だよ。 両親が離婚して えり

::健吾兄さん」

絵里姉が声を絞り出すように言った。

私と麻美は顔を見合わせた。

「知ってる?」

麻美は首をひねり、考え込むように答えた。

ません。理真お姉さまこそ覚えてないのですか?」 「私は3歳の時までしかここに住んでいませんでしたから、 わかり

街に戻ってきたのだ。 三姉妹は祖母に引き取られた。その祖母が亡くなり、私たちはこの 私が小学生になってすぐに両親は交通事故に遭って他界し、 私が6歳の頃、 絵里姉は12歳だったはず。 私たち

調べてなかったの?」

うですし、 調べようがありません。 彼も別の場所に住んでいますから」 彼の両親ともにここには住んでい ない ょ

モニター の中の熊田さんはまん丸の顔を満面の笑みに変えた。

さんになったなぁ 嬉しいなぁ~。 あのえりちゃ んにまた会えるなんて。 しかも別嬪

めている。 の熊田さんは親戚のおじさんみたいに懐か しそうに絵里姉を

... えっと。 ごほ h

わざとらしい咳ばらいをして、 えっと、 本日はお仕事の事ですよね?」 絵里姉は熊田さんを正面から見た。

熊田さんは大学病院の医者である。 『神の手』 将来を有望された脳外科医だ。

そう呼ばれるようになるのも遠い将来ではないそうだ。

彼の未来は輝かしいものだった。

感じで、性に合わないんだよね~。 れ、最後に死ぬやつ。 「はぁ〜。 何かさ~。 白いなんとかって小説あるじゃない?そんな 職場環境悪くて...。 大学病院って、 だからさ、 熊本の過疎地の病院 ほら、

...診療所に転職しようかなぁ~なんてさ、思ってさ~

遠い過疎地には、医者も弁護士も若者も少ない。

過疎地こそ、職場環境が悪いのだ。

「迷っているなら、 行かない方がいいと...曾お爺様が言っ ていらっ

絵里姉は当初の予定通りに曾爺さんを出した。しゃいます」

過疎地には確かに医者は必要である。

だが、 わざわざ『神の手』 を持つ熊田さんが行く必要はな

彼の助けを必要とする人、 彼でなければ救えない人が近 い将来大勢

出てくるはずだ。

彼が行かなくてもいいはず。

迷っているってことは、 本人もわかっているのだ。

自分の使命を。

たとえ、 熊田さんにとっ ては悪い職場環境でも、 そこで必要として

いる患者がいる限りは手を尽くすべきだ。

曾爺さんか...」

お客様だ。 彼は信じているのかいない のか、 片手で頬杖をついた。 態度の悪い

おばあちゃ んじゃ ない んだよね。 僕が医者になろうと思っ たの

間に合わなかったんだ。 田舎で、軽い病気だったけど、その村には医者がいなくて、 大好きだった田舎のおばあちゃ だから、 医者になろうって思ったんだよね」 んが死んだ時だった。 すっごい 結局

絵里姉が少しだけうつむいた。「...そうでしたね」

もしかして何かを思い出したのだろうか。

「健吾兄さんは、 いつも言っていたね。 だから、 医者になるって...、

私の両親が事故に遭った時も...」

あの頃のことを、 私はあまり覚えていない。

絵里姉はぽつぽつと話を続けた。 敢えて思い出そうとしないようにしているのかもしれな r,

ことがないようにしたいって言ってくれたね」 聞いて...、健吾兄さんが、 なか受け入れをしてくれる病院がなくて、間に合わなくなったって 「父は即死だったけど、母は救急車の中で死んだって聞 絶対、医者になって、もう二度とそんな にた。

なことも忘れてしまったことに、最近気づいてしまったんだよ...」 純粋に一人でも多くの患者を救いたいって思ってたな。でも、 く脳外科医になって、まわりからチヤホヤされているうちに、 「あの頃は、まだ単なる医学生で必死に勉強していたころだっ たまたま手先が器用だったこともあって、 恩師の勧めで何とな その たな。

「ここでも人を助けることはできるわ」

そうだよ。 ここでもいいし、熊本でもいい んだ

神の手は、 その診療所じゃあ、 宝の持ち腐れだわ」

... よく知っているね」

私たちがリサーチしていることは内緒である。

曾お爺様がおっしゃっているの」

そっか」

またまた間の抜けた返事をして、 ばあちゃ 僕の手は『神の手』 んちに遊びに行っ たときに、 なんかじゃ でも、 ないよ。 お腹壊すと、 困ったように言った。 小さい頃、 つもおばあ 田舎の

ちゃ ね がしたよ。 んがお腹をさすってくれたんだよね。 僕の『神の手』 は そのおばあちゃんの手の平なんだよ なんか不思議に治っ た気

でしょう?」 「健吾兄さんがわざわざ過疎地に行って、 お腹をさする必要はない

思わない?」 ほら、キャンディを子供に渡して薬だよって言うのとおなじかもし れないけど...、 「魔法だと思わない?本当におばあちゃんがさすると治ったんだよ。 そんな『手当て』って、医者がした方が効果あると

「だから、健吾兄さんが行くことはないでしょう?」

でもさ、僕が行かないとそこには医者がいないんだよ」

そんな場所は他にもたくさんあります」

だけどさ、そんな場所を一つでも減らせれば しし いと思わない?」

「それは、行政の仕事です。 医者の仕事ではありません」

「でも、 でもさぁ

その時、 何かが切れた音がした。

「行きたいなら、 行けばいいでしょ !要するに行きたいんでし

気持ちは決まっているんでしょ?ぐだぐだ言わずに行ってしまえば

絵里姉が脳の血管が切れた音だっいいわ」 た。

脳外科医が脳の血管を切ってどうするのだ。

私と麻美は再び顔を見合わせた。

麻美は気を取り直して、マイクで絵里姉をたしなめる。

絵里お姉さま。 何を言っているんですか?彼を止めるのが私たち

のお仕事です』

その声で、 我に返った絵里姉は、 自分が言っ てしまっ たことに固ま

「...それも、曾爺さんが言っているの?」熊田さんもまん丸い目をまん丸くした。

これは、 えりが言っているの...」

熊田さんはくすくすと笑いだした。

「じゃあ、えりちゃん。一緒に行かない?熊本」

「は?」

フリーズ。

これで何度目だろうか。

麻美は落ち着いて、マイクで絵里姉に言った。

『絵里お姉さま。彼には、婚約者がいますよ』

私はその後ろから遠巻きに言った。

『そ~よ~。絵里姉が行ったら、話が終わる~

「行かないわよ!」

隠しマイクの忠告に思わず絵里姉が怒鳴る。

やっぱ、無理だよね~」

熊田さんががっくり肩を落とす。

「あ。いや。そうじゃなくて...」

「行ってくれる?」

ぁ いや。そうでもなくて..、 ちょっと今日は曾お爺様がうるさ

くて... おほほ...」

ら始まったのだ。 実は今日の仕事は、 彼の婚約者である瑞穂さんがここに来たことか

このご時世、天然記念動物並の扱いである。 そんな希少価値のある

瑞穂さんは同じく医者であり産婦人科医である。

産婦人科医は特に

産婦人科医を過疎地の子供のいない田舎に行かせるわけには かな

ましてや過疎地に2人も医者は必要ない。いのだ。

瑞穂さんがどんなに説得しても、 熊田さんは煮え切らず、 もともと

霊的なものに興味のあった瑞穂さんが相談のためここを訪れたのだ

た。

絵里姉は、 たことを臥せたうえで、 瑞穂さんに曾爺さんの口を借りて、 彼をここによこすように薦めたのだ。 瑞穂さんがここに来

脳外科医として多くの、健吾兄さんしか助けることのできない患者 さんを助けることは素晴らしいと言ってます」 「えっと、 ですね。 健吾兄さん...の曾お爺様は、 大学病院に残って

... そっか」

言ってます」 でも、私は、 ... えりは、 健吾兄さんは行きたいところに行けって

絵里姉は、とおとお故障したか?『絵里お姉さま?何を言っているんですか?』

「えりちゃん。本当は僕は熊本に行きたいんだ」

「行ったらいいです」

「でも、婚約者が反対していて...」

「だったら、その彼女に言ってください。 別の女性と、 自分に付い

てきてくれる人と行くと」

...えりちゃんがついてきてくれるの?」

『絵里姉?』「ええ。行きます」

絵里お姉さま?』

*

そうして、絵里姉はいなくなり、 このお話は最終回になった..

「どこにも行かないわよ!」

結局、熊田さんは絵里姉の言うとおりに瑞穂さんに言った。絵里姉はいつもの黒いコスプレで私を睨んだ。

その結果、 瑞穂さんの方が折れたのだ。

熊田さんは大学病院を辞め、 さんはその過疎地から車で2時間の熊本県内の市民病院で勤務する 瑞穂さんと共に過疎地に引越し、 瑞穂

ことになったそうだ。

絵里姉は、 最初からこうなることをわかって、 あんな風に言った

の ?

「当たり前でしょう?私は熊には興味がないの」

昔、絵里姉の机の引出しに、写真があったのを思い出したのだ。絵里姉の初恋は、間違いなくあの熊田さんだ。しかし、私は思い出して,た

もっともその頃は、痩せていて色白の青年だった。

私が思い出せなかったのも仕方のない話だ。

「でも、あれでは霊視じゃなくて、本当にお悩み相談室です。

チキ以前の問題です」

曾爺さんではなく、絵里姉自身の意見が通っ麻美が言うのももっともだ。 たのだから。

絵里姉。「もしかして、そのほうが儲かるのかな?」

本当にお話が終わっ ちゃうよ

それにしても、絵里姉は金を儲けたいのか、そんなことを言ったら、本当にお話が終わっ 何をしたいのか、

ある。

それは、 神のみぞ知る。

第6話 神の手のひら? (後書き)

お時間があれば、そちらもよろしくお願いします (*^__^*) これは、「月の裏であいましょう。 最後までお読みくださり、誠にありがとうございました。 」の番外編的な作品です。

PDF小説ネット発足にあたって

ビ対応 行し、 など 公開できるように 小説家になろうの子サイ 部を除きインター 最近では横書きの F小説ネッ の縦書き小説 の縦書き小説 います。 そん をイ を思う存分、 たのがこ な中、 ネッ 書籍も誕生しており、 タテ書き小説ネッ ト関連= 誰もが簡単にPDF形式 ネッ て誕生しました。 ト上で配布す 小説ネッ 横書きという考えが定着しよ てください。 トです。 既 は 2 0 存書籍 タイ いう目的の基 07年、 の電子出版 小説を作成 小説が流 ンター

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。 http://ncode.syosetu.com/n6797e/

ツキヨミ!

2010年10月12日02時18分発行